

## 豊島廃棄物等処理事業実績について

「豊島廃棄物等処理事業管理マニュアル」第7(情報の公開及び提供)の5の規定に基づき平成15年9月から平成16年2月までの処理状況等について報告する。

「豊島廃棄物等処理事業管理マニュアル」抜粋

第7 情報の公開及び提供について

5. 各施設の運転実績その他の業務実績をまとめた月間実績及び年間実績は、管理委員会に報告し、了承を得た後、豊島、直島関係者に報告するものとする。

### 1. 廃棄物等の処理実績について

#### ① 廃棄物等の中間処理量

平成15年9月18日から平成16年2月末までの中間処理施設における処理(投入量)実績は、下表のとおりである。なお、直島の一般廃棄物1,211トンを除く。

表 1

(単位:t)

		試運転等期間 4月～9月	9月18日～	10月	11月	12月	1月	2月	合計	実績量/計画量
計画	処理量	-	3,080	6,820	5,940	4,620	5,720	2,420	28,600	-
実績	2炉運転日数	85	0	26	13	6	19	0	64	-
	1炉運転日数	10	9	0	16	2	0	0	27	-
	処理量(投入量)	14,540	819	4,446	2,149	250	3,113	0	10,777	0.38

\*「実績量/計画量」は、試運転期間を除く。

#### ② 搬出量、積込量及び輸送量

中間処理施設の処理状況に対応して掘削量、中間保管・梱包施設での積込み量及び海上輸送量を調整した。平成15年9月18日から平成16年2月末までの搬出量等の実績は、下表のとおりである。

表 2

(単位:t)

		試運転期間 4月～9月	9月18日～	10月	11月	12月	1月	2月	合計
掘削現場からの搬出量	実績	16,831	900	4,560	830	930	2,900	0	10,120
積込量	実績	15,253	1,030	3,835	1,615	0	3,997	0	10,477
輸送量	実績	15,147	1,028	3,831	1,760	0	3,993	0	10,612

\* 掘削現場からの搬出量は、トラック1台あたりの平均積込重量に台数を乗じて計算している。

③特殊前処理物の処理実績

平成15年9月18日から平成16年2月末までの特殊前処理物処理施設における処理実績は、下表のとおりである。

表 3

(単位:t、kg、本)

	試運転期間 4月～9月	9月18日～	10月	11月	12月	1月	2月	合計
岩石及びコンクリート(t)	9.0	0	36.0	2.0	0	0	4.18	42.18
金属物(kg)	1,160	0	0	0	0	0	0	0
ドラム缶(本)	2	0	1	31	27	83	0	142
可燃物(t)	29.92	11.43	7.94	42.7	47.9	6.93	49.16	166.06

④副成物の発生量

平成15年9月18日から平成16年2月末までの副生物の発生量は、下表のとおりである。

なお、計画量は、第1回～第3回までの引渡性能試験結果による1炉あたりの1日の平均発生量(鉄0.1t/炉・日、銅1.27t/炉・日、アルミ0.18t/炉・日、溶融飛灰20m<sup>3</sup>/炉・日、溶融スラグ120t/炉・日、)に運転日数を乗じて算出している。

表 4

(単位:t)

		試運転期間 4月～9月	9月18日～	10月	11月	12月	1月	2月	合計
鉄	計画	—	3.3	7.4	6.4	5.0	6.2	2.6	30.9
	実績	10	*	*	*	*	6.2	*	6.2
銅	計画	—	35	78	68	53	66	27	327
	実績	164.0	3.9	37	30.4	6.6	26.4	0	104.3
アルミ	計画	—	22	50	43	34	42	17	208
	実績	31.0	6.7	16	21.2	1.9	5.5	0	51.3
溶融飛灰	計画	—	560	1,240	1,080	840	1,040	440	5,200
	実績	587	46	167	136	46	127	13	535
溶融スラグ	計画	—	1,680	3,720	3,240	2,520	3,120	1,320	15,600
	実績	9,007	509	2,751	1,412	245	1,682	0	6,599

\*現在ピット内で保管中であり、重量計測を行っていない。ロータリーキルンへの投入の際に計測する。

⑤高度排水処理施設の処理

処理量は下表のとおりである。なお、処理量と放流量の差については、粉塵抑制のための散水用水、特殊前処理物の洗浄用水として利用している。

表 5

(単位:t)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計	日量
処理量	2,028	1,896	1,938	1,918	1,527	1,866	11,173	61.4
海域への放流量	1,879	1,676	1,901	1,871	1,441	1,809	10,577	58.1

2. モニタリング等の実施状況

平成15年9月から平成16年2月までの実施状況は、下表のとおりである。

表 6

項目	9月		10月		11月		12月		1月		2月		備考			
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績				
豊島	環境計測	沈砂池1, 2			○	○						○	△	3月採水済み		
		高度排水処理施設			○	○							○	○		
		掘削・運搬	敷地境界 大気汚染			○	×					○	○			天候、作業の有無により、計測に適した日 がなかった。
			敷地境界 騒音			○	×					○	○			天候、作業の有無により、計測に適した日 がなかった。
			敷地境界 振動			○	×					○	○			天候、作業の有無により、計測に適した日 がなかった。
			敷地境界 悪臭			○	×					○	○			天候、作業の有無により、計測に適した日 がなかった。
		地下水												○		
	周辺環境モニタリング	水質汚濁			○	○							○	○		
		生態系											○	●		
	作業環境測定	掘削・運搬	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			定期監視					○	○							
			ダイオキシン類	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	天候、作業の有無により、測定に適した日 がなかった。
		中間保管・梱包施設	個人暴露量	○	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	天候、作業の有無により、測定に適した日 がなかった。
			常時監視 騒音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高度排水処理施設	常時監視			○	△							○			
直島	環境計測	中間処理施設	敷地境界 大気汚染			○	△		○				○	×		
			煙突 (ばいじん)	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	計画日に点検のため 停止(8月)
			煙突 (CO)													連続測定
			煙突 (ダイオキシン類)			○	△		○				○	○		1号炉のみ実施 2号炉は点検のため 停止
			水質汚濁			○	×									放流なし
	周辺環境モニタリング	敷地境界 騒音、振動、悪臭			○	△		○					○	×		
		最大着地点 大気汚染			○	△		○					○	×		
		排水口 水質・底質			○	△		○			○	○				
		最大着地点 土壌			○	△								●		
		作業環境測定	中間処理施設	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
定期監視	○			△									○			
常時監視 (排水処理施設)															今年度はなし (槽の点検なし)	
輸送	周辺環境モニタリング	海域					○	○			○	○				
		水質汚濁					○	○			○	○				

実績欄凡例

- : 分析済
- : 分析中
- △: 時期を変更して実施
- ×: 未実施



### 3. 薬品、ユーティリティの使用等実績

平成15年9月から平成16年2月末までの薬品、ユーティリティの使用実績は、下表のとおりである。

表 7

(単位:kg、l、kl、MWh、m<sup>3</sup>、t)

区 分			9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
掘削・運搬	生石灰(kg)	計画	81,000	194,000	169,000	131,000	162,000	69,000	806,000
		実績	75,000	120,000	15,000	15,000	60,000	0	285,000
	炭酸カルシウム(kg)	計画	203,000	484,000	422,000	328,000	407,000	172,000	2,016,000
		実績	165,000	285,000	135,000	60,000	210,000	0	855,000
中間処理	炭酸カルシウム(kg)	計画	122,000	291,000	253,000	197,000	244,000	102,000	1,209,000
		実績	29,940	147,780	223,250	60,770	93,280	0	555,020
	苛性ソーダ(kg)	計画	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	5,000	105,000
		実績	20,220	0	20,190	20,190	0	0	60,600
	消石灰(kg)	計画	53,000	126,000	110,000	85,000	106,000	44,000	524,000
		実績	11,160	34,610	44,750	11,880	33,420	0	135,820
	PAC(kg)	計画	2,500	7,500	6,000	5,000	6,000	2,500	29,500
		実績	0	5,080	8,070	1,520	3,820	0	18,490
	次亜塩素酸ソーダ(kg)	計画	0	100	100	100	100	100	500
		実績	0	100	100	200	0	0	400
	高分子凝集剤(kg)	計画	0	300	200	200	200	200	1,100
		実績	0	300	150	0	100	0	550
	ボイラー清缶剤(kg)	計画	0	100	0	100	0	100	300
		実績	0	0	100	0	0	0	100
	ボイラー脱酸素剤(kg)	計画	100	200	100	100	100	100	700
		実績	0	200	0	200	0	0	400
	冷却水薬品(プラント機器)(kg)	計画	100	100	100	100	100	100	600
		実績	0	100	100	200	0	100	500
	冷却水薬品(溶融炉)(kg)	計画	100	100	100	100	100	100	600
		実績	0	200	200	400	200	200	1,200
	HCl試薬(l)	計画	0	100	100	100	100	100	500
		実績	0	25	125	0	150	0	300
	重油(kl)	計画	308	682	594	462	572	242	2,860
		実績	393	748	757	256	458	6	2,618
	電力(MWh)	計画	840	1,860	1,620	1,260	1,560	660	7,800
		実績	1,310	1,684	1,599	1,199	1,556	798	8,146
	上水(m <sup>3</sup> )	計画	2,520	5,580	4,860	3,780	4,680	1,980	23,400
		実績	1,879	4,196	2,788	969	3,227	451	13,510
純水(t)	計画	2,912	6,448	5,616	4,368	5,408	2,288	27,040	
	実績	2,046	4,613	3,909	1,059	3,356	101	15,084	
外部蒸気送り量(t)	計画	2,800	6,200	5,400	4,200	5,200	2,200	26,000	
	実績	1,833	4,238	3,644	906	3,106	0	13,727	

なお、掘削・運搬における生石灰、炭酸カルシウムの使用計画量は、掘削計画量の4%及び7%で算出している。また、中間処理施設における薬品(炭酸カルシウム～HCl試薬(1))については設計上の想定使用日量に運転日数を乗じ、ユーティリティについては、第1回～第3回までの引渡性能試験結果による1炉あたりの1日の平均使用量(重油11kl/炉・日、電力30MWh/炉・日、上水90m<sup>3</sup>/炉・日、純水104t/炉・日、外部蒸気送り量100t/炉・日、)に運転日数を乗じて算出している。

#### 4. 見学者数について

平成15年9月から平成16年2月までの豊島、直島それぞれの見学者数は下表のとおりである。

表 8

(単位:人)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合 計
豊島側	434	962	1,234	230	306	156	3,322
直島側	446	1,564	1,449	313	343	447	4,562

#### 5. 防災(消防)訓練

豊島側では平成15年10月26日(日)に、直島側では平成15年11月28日(金)に、それぞれ防災(消防)訓練を実施した。

#### 6. ヒヤリ・ハットの状況

報告のあったヒヤリ・ハットは下表のとおりである。

表 9

施設名等	日 時	内 容	再発防止の対応
専用棧橋(直島側) 海上輸送船	H15.9.18	「太陽」オーバーラン	余裕を持った入港態勢 の確立等
中間保管・梱包施設	H16.2.9	洗浄かご落下	吊り具、洗浄ドラムの一 部改善

## 参 考

平成15年4月から16年3月までの掘削の結果による廃棄物等の密度（比重）の実測結果及びその比重に基づき算出した掘削容積は次のとおりである。

### 1. 密度（比重）

原状態での比重の実測結果を表1に示す。

仮置き土は、土壌の当初設定値(1.75t/m<sup>3</sup>)とほぼ同じであったが、シュレッダーダストは当初設定値(1.09t/m<sup>3</sup>)よりも低かった。

表1 比重測定結果

	測定日	掘削容積(m <sup>3</sup> )	重量(t)	密度(比重) (t/m <sup>3</sup> )
シュレッダーダスト	平成15年7月18日	5.6	4.4	0.79
	平成15年9月5日	13.5	10.4	0.77
	平成15年9月23日	9	7.9	0.87
	平成16年3月12日	6	5.5	0.92
	平成16年3月12日	6	5.4	0.89
	平均			0.85
仮置き土	平成15年7月18日	5.6	9.3	1.66
	平成15年9月8日	20.7	40.2	1.94
	平成15年9月22日	27	48.2	1.78
	平成16年3月12日	75	130.5	1.74
	平均			1.78

### 2. 処理実績量

平成15年度の処理実績重量及び比重実測値による処理容積を表2に示す。

比重を表1の結果に基づいて1.75t/m<sup>3</sup>及び0.9t/m<sup>3</sup>とする。

表2 処理実績表

	処理量(計算値)(単位:t)			投入量(単位:t)
	シュレッダーダスト	土壌	合計	合計
試運転	1,746 (65%)	940 (35%)	2686 <sup>※)</sup>	2,525
第1回性能試験	3,061 (68.8%)	1,388 (31.2%)	4,449	4,233
第2回性能試験	2,514 (59.4%)	1,718 (40.6%)	4,232	3,989
第3回性能試験(前半)	1,194 (54.4%)	1,001 (45.6%)	2,195	3,793
第3回性能試験(後半)	1,722 (80.1%)	189 (19.9%)	1,911	
性能試験運転以降	7,324 (65%)	3,943 (35%)	11,267 再熔融スラグを除く	10,777 再熔融スラグを除く
合計重量(t)	17,560 (66%)	9,180 (34%)	26,740	25,317
合計容積(m <sup>3</sup> )	19,511 (79%)	5,246 (21%)	24,757	-

※) 試運転時の処理量(計算値) = 試運転時の投入量 × (性能試験時の計算処理量 ÷ 投入量の3回平均値)

処理量(計算値)(情報表示システムで表示)は、熔融炉内の熱収支計算により「実熔融量」を推計し、この値から実測による蒸発水分量の減量及熔融助剤添加に伴う増量分を補正した値である。



## 豊島廃棄物等処理事業(各種モニタリング)の年度計画(16年度)について

### (1)運転・維持管理計画

各施設の年間運転計画の作成にあたっては、中間処理施設での年間処理量（1日当たりの処理量×稼働日数）を基礎に豊島処分地での掘削量や廃棄物運搬船の航行日数を調整して作成するものとする。

中間処理施設の処理量については、スラグのアルカリシリカ反応対策のため土壌比率を小さくしたことから、16年4月から1月程度の処理実績を踏まえて決定する。

また、掘削、均質化については、土壌比率の変更、水素ガス発生を抑制するための溶融助剤の添加量の変更や15年度掘削分の性状分析の結果から、シュレツダダストの含水率や比重が当初の想定より小さいことが判明したことなどから、掘削計画の変更が必要となる。

したがって、平成16年度の運転・維持管理計画については、処理量、掘削量等を確定させる必要があるため、16年5月に作成することとなる。

高度排水処理施設の稼働日数は、355日（定期点検日数10日程度）で、23,000t程度の処分地内の浸出水等の処理を行う。



豊島及び直島の環境計測、周辺環境モニタリング、作業環境測定年度計画(平成16年度)

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	適用	
豊島	環境計測	社砂池1, 2 放流口水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		高度排水処理 排水口水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	周辺環境モニタリング	敷地境界 大気汚染 騒音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		敷地境界 振動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		敷地境界 悪臭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		地下水	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○は水位測定、●は合わせて 水質分析も必要 水質は年4回、底質は年2回(夏季、 秋季) 平成16年度で終了
		水質汚濁	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		生態系	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	作業環境 測定	梱削・運搬	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			定期監視	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○はダイオキシン類、粉塵のみ
中間保管・梱 包施設		個人暴露量	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
直島	環境計測	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		騒音	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	周辺環境モニタリング	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	定期点検時(年1回程度)
		敷地境界 大気汚染 騒音 (ばいじん)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		煙突 (CO)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		煙突 (ダイオキシン類)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大雨が長く続き、雨水を海へ排出す る場合(年1回)
		水質汚濁	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		敷地境界 騒音、振動、悪 臭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	環境計測の敷地境界(最大着地点)と 兼ねる
作業環境 測定	最大着地点 大気汚染 排水口 水質・底質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	最大着地点 土壌	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	常時監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	定期監視	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	定期点検時(年1回程度)	
輸送	周辺環境モニタリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	水質は年4回、底質は年2回	



## (2)環境計測、周辺環境モニタリング及び作業環境測定計画

### ①施設の環境計測

「豊島における環境計測及び周辺環境モニタリングマニュアル」及び「直島における環境計測及び周辺環境モニタリングマニュアル」において計測項目、頻度が定められており、平成 16 年度については稼動初期\*の規定により年度計画を作成する。

※「稼動初期」とは、中間処理施設の運転が始まった初期の段階のことを指し、計測頻度を多くしている。施設が安定操業期に入った後には「安定期」ということで頻度を減少させることとしている。

区分			頻 度	
			稼動初期	安定期
豊島	沈砂池 1, 2	排出口の水質	4回/年 (春、夏、秋、冬)	1回/年
	高度排水処理施設	排出口の水質	4回/年 (春、夏、秋、冬)	1回/年
	廃棄物等の掘削・運搬	大気汚染 (敷地境界)	4回/年 (春、夏、秋、冬)	1回/年
		騒音 (敷地境界)	2回/年 (夏、秋)	1回/年
		振動 (敷地境界)	2回/年 (夏、秋)	1回/年
		悪臭 (敷地境界)	2回/年 (夏、秋)	1回/年
		地下水	1回/年 (冬季)	
直島	中間処理施設	大気汚染 (敷地境界) NOx 他	4回/年 (春、夏、秋、冬)	適宜
		煙突 (ばいじん他)	1 2回/年	6回/年
		煙突 (CO)	連続	連続
		煙突 (ダイキソ類)	4回/年 (春、夏、季、冬)	2回/年 (夏、秋)
		水質汚濁	大雨が長く続き雨水を海域へ排出する場合 (1回/年 ただし、水素イオン濃度 (pH)、化学的酸素要求量 (COD)、浮遊物質 (SS) はその都度)	
		騒音、振動、悪臭 (敷地境界)	4回/年 (春、夏、秋、冬)	適宜

## ②周辺環境モニタリング

「豊島における環境計測及び周辺環境モニタリングマニュアル」、「直島における環境計測及び周辺環境モニタリングマニュアル」及び「直島・豊島間の海上輸送に係る周辺環境モニタリングマニュアル」において計測項目、頻度が定められており、平成16年度については稼動初期\*の規定により年度計画を作成する。

※「稼動初期」とは、中間処理施設の運転が始まった初期の段階のことを指し、計測頻度を多くしている。施設が安定操業期に入った後には「安定期」ということで頻度を減少させることとしている。

区分		頻度	
		稼動初期	安定期
豊島	水質汚濁	底質2回/年(夏、秋) ~ 水質4回/年(春、夏、秋、冬)	1回/年
直島	最大着地点の 大気汚染	4回/年(春、夏、秋、冬)	1回/年
	排水口の水 質・底質	4回/年(春、夏、秋、冬)	1回/年
	最大着地点の 土壌	1回/年	1回/数年
海上輸送	海域の水質汚濁	4回/年(春、夏、秋、冬)	1回/年
		ダイキシン類、ニッケル、モリブ デン、アンチモン及び底質 2回/年(夏、秋)	

### ③作業環境測定

「豊島廃棄物等処理事業における作業環境管理マニュアル」において計測項目、頻度が定められており、これに基づき年度計画を作成する。

区 分			測 定 回 数
掘削・運搬	常時監視	ガス検知管による測定	週1回 悪臭等の異常が感じられた場合
		デジタル粉じん計による測定	廃棄物等の混合作業時等
		ガス検知器による測定	連続測定（3回/日記録）
		公定法に準じた測定	常時監視で基準値を超過した項目があった場合 悪臭等の異常が感じられた場合
	定期監視		3回/年（春・夏・秋） 廃棄物の掘削地点又は混合地点がイカリ類、粉じん 1回/月
	個人暴露量調査		1回/月
	騒音		2回/年（春・秋）
	区 分		
中間保管・梱包	常時監視	ガス検知管による測定	週1回 当分の間、毎日作業開始時に測定を行い、データを蓄積して安全が確認できれば、週1回の測定とする。
		公定法に準じた測定	常時監視で基準値を超過した項目があった場合
	騒音		2回/年（春・秋）
高層排水処理	常時監視	ガス検知器による測定	連続測定（3回/日記録）ただし、清掃・点検時
中間処理	常時監視	ガス検知管による測定	週1回
	定期監視		半年に1回
	（排水処理施設） 常時監視	ガス検知器による測定	連続測定（3回/日記録） ただし、清掃・点検時
	騒音		2回/年（春・秋）

### (3)副生物の有効利用計画

15年度の実績を基礎に稼働日数、処理量を考慮して年度計画を作成する。したがって、運転・維持管理計画と同様、16年5月に作成することとなる。





審議等項目		会議の開催予定	15年度	平成16年度			備考
			3月 28日	5月 頃	9月 頃	3月 頃	
			第1回	第2回	第3回	第4回	
直島	中間処理	施設の運転・管理					
		基本計画の変更		●			
		年度計画の作成(変更)		●	○	●	○: 変更の必要がある場合
		安全性の評価	●		●		
		運転状況の確認・評価	●	●	●	●	公表(速報値、確定値)は情報表示システムで行う
		運転維持管理マニュアルの再考		●			ガス換気装置の新設などに伴う変更
		予想外の事態やその他の必要な事項等への対応	←				→
		作業環境測定, 健康診断評価の報告	●	●	●	●	健康管理委員会の審議状況報告
		施設の環境計測					
		年度計画の作成	●			●	
	結果の評価		●	●	●	計測は必要に応じて技術アドバイザーが立会 公表は情報表示システムで行う	
	副産物の取扱い	銅、鉄、アルミニウムのリサイクル					
		年度計画の作成(変更)		●	○	●	○: 変更の必要がある場合
		状況の確認	●	●	●	●	
		飛灰のリサイクル					
		年度計画の作成(変更)		●	○	●	○: 変更の必要がある場合
		状況の確認	●	●	●	●	公表は情報表示システムで行う
		スラグのリサイクル					
		年度計画の作成(変更)		●	○	●	○: 変更の必要がある場合
	状況の確認	●	●	●	●	公表は情報表示システムで行う	
モニタリング	周辺環境						
	年度計画の作成	●			●		
	結果の評価		●	●	●	計測は必要に応じて技術アドバイザーが立会 公表は情報表示システムで行う	
直島 豊島	陸上・海上 輸送	輸送					
		作業環境測定, 健康診断評価	●	●	●	●	健康管理委員会の審議状況報告
	モニタリング	周辺環境					
年度計画の作成		●			●		
	結果の評価		●	●	●	計測は必要に応じて技術アドバイザーが立会 公表は情報表示システムで行う	



## (2)施設・設備の改善、作業要領等の変更手順

### 1、主旨

豊島廃棄物等処理事業の進捗に伴い、施設等の改良（ハード関係）や作業要領等の見直し（ソフト関係）などが生じることがあるため、これらを行うにあたっての、改善計画の策定、専門家の関与の仕方、関係者への周知等の手順を定める。

改善の程度は、①軽微な改善、②簡易な改善、③重大な改善に区分する。

①「軽微な改善」とは、照明用電灯の設置、看板、案内板の設置、法令の変更に伴う基準値等の変更などで、施設の性能や作業手順の変更などを伴わないものをいう。

②「簡易な改善」とは、「軽微な改善」、「重大な改善」以外のものをいう。

③「重大な改善」とは、当初設計の大幅な変更を伴う改良や機器の新設、仕様の変更などで施設等の性能の大幅な変更を伴うもの、運転方法や作業手順の変更（マニュアルの変更も含む）などの事業管理の大幅な変更を伴うものをいう。

### 2、施設・設備の改善の手続(フロー図参照)

(1) 関係行政機関からの指摘、専門家の指導等を受けた場合及び運転事業者の提案等により事業の実施のために施設・設備の改善が必要と認められる場合には、県は、改善計画書を作成し、改善を必要とする業務を担当する技術アドバイザーに協議を行う。

(2) 技術アドバイザーは、改善の必要性、改善計画の内容を評価し、改善内容の程度（①軽微な改善、②簡易な改善、③重大な改善）を判断する。

(3) 技術アドバイザーの評価の結果、

#### 1) 「軽微」と判断された場合

①県は、豊島廃棄物等管理委員会委員長に報告するとともに豊島住民、直島町など関係者及び必要に応じて関係機関に通知する。

②改善の結果は、豊島廃棄物等管理委員会へ報告する。

#### 2) 「簡易」と判断された場合

①技術アドバイザーの意見を付して豊島廃棄物等管理委員会委員長の意見を聴く。

②委員長が承認した場合は、豊島住民、直島町などの関係者に通知するとともに必要に応じて関係機関への届出、許可申請等を行う。

③改善の結果は、技術アドバイザーの確認、評価を受け、合格とされたものについて豊

島廃棄物等管理委員会に報告する。

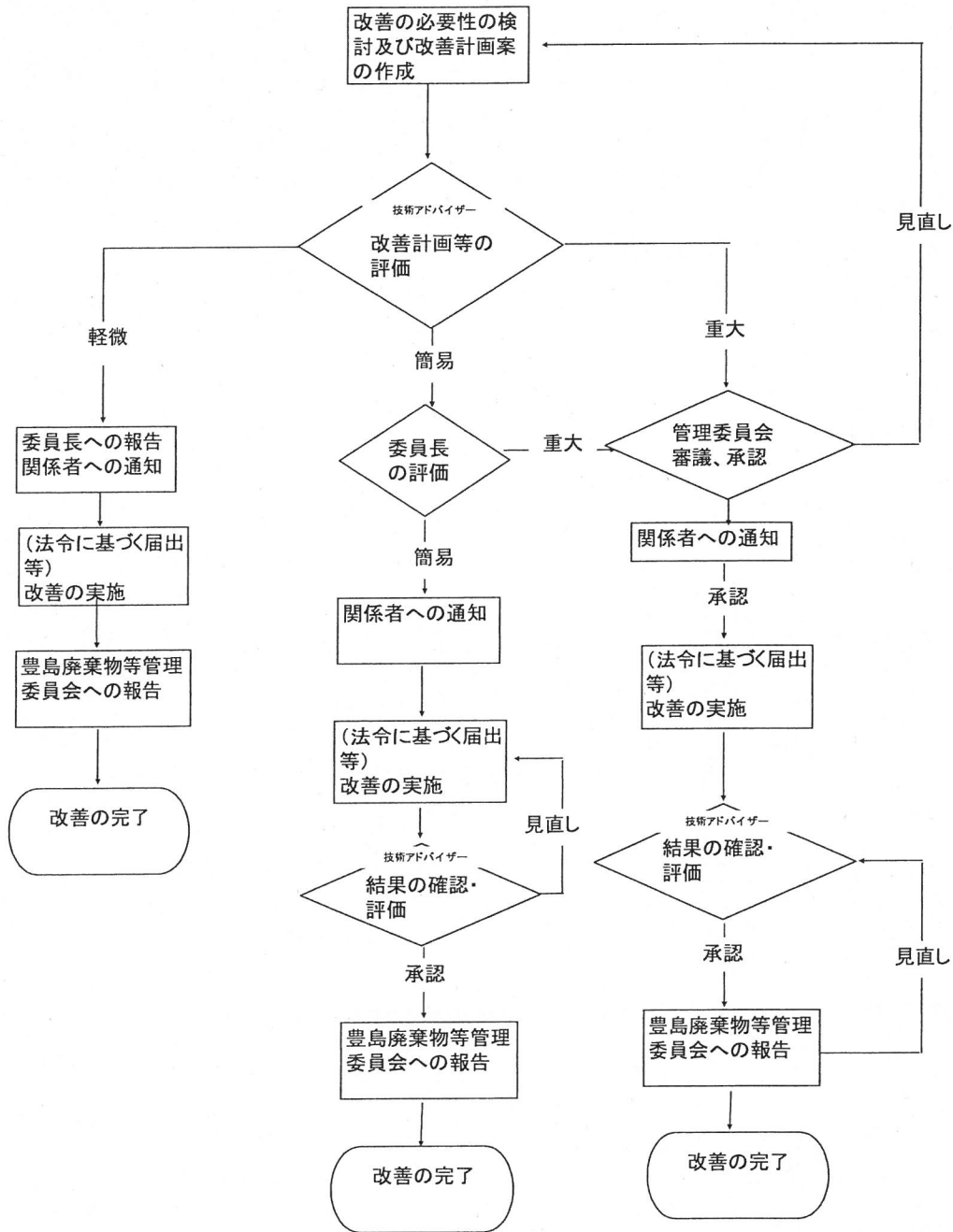
3) 「重大」と判断された場合

①改善計画書を豊島廃棄物等管理委員会に諮り了承を得る。

②承認を得た改善計画書に基づき作業工程、詳細設計等を記した詳細計画及び確認方法等を定めた確認試験要領を技術アドバイザーに提出し、了承を得た上で改善を行う。また、豊島住民、直島町などの関係者に通知するとともに必要に応じて関係機関への届出、許可申請等を行う。工事等実施の際には、必要に応じて技術アドバイザーの立会のうえ指導を得る。

③改善作業終了時に技術アドバイザーの確認を得て、豊島廃棄物等管理委員会に改善結果報告書を提出し、了承を得る。

改善手続きフロー図





配布資料の取扱について

資料		配布先			取扱		
番号	資料名	委員のみ	全員	非公開 回収	非公開 関係者限り	公開	条件
	次第		○			○	
	豊島廃棄物等管理委員会 委員及び技術アドバイザー一名簿		○			○	
	豊島廃棄物等管理委員会設置要綱		○			○	
1・4/1	豊島廃棄物等処理事業実績について		○		○	○	
1・4/2	豊島廃棄物等処理事業(各種モニタリング)の年度計画(16年度)について		○		○	○	
1・4/3	豊島廃棄物等管理委員会の活動計画(16年度)について		○		○	○	
1・5	配布資料の取扱について		○			○	

